

議員氏名：大沼 英樹

議案番号：陳情第4号

案件名：防災と二宮らしさを創出するラディアン周辺行政機能集約事業の見直しを求める陳情

討論内容：

私は、陳情第4号、防災と二宮らしさを創出するラディアン周辺行政機能集約事業の見直しを求める陳情に賛成の立場で討論をいたします。

昨年8月の葛川氾濫による浸水被害を目の当たりにして、ラディアン周辺の治水対策が必要であるという現実的な問題に対応できない町の行政関係者の現状には、陳情者同様、落胆するばかりです。

内閣府がウェブ上で公開している市町村のための水害対応の手引きには以下のような記載があります。

職員が集まらず、計画どおりの体制を整えることができない。災害対応業務が集中し、マンパワーが不足する。水が引いた後も廃棄物や泥があふれ、車両の乗り入れができず、衛生環境が悪化する。これらの事態が発生した場合、住民の生命、身体、財産が守られなくなるおそれがあることを警告しております。

実際にあった事例では、災害対応のために職員が参集中、車が水没し、二次災害が発生したケース、道路冠水により通行ができず、職員が参集を断念したケースなどが記載されております。

今まで議会では、水はすぐ引くと答弁を続ける二宮町行政ですが、実際に8月の葛川氾濫では、水はもちろんのこと、大量の泥が流出し、復旧作業に大きな負担がありました。

国が示す事例や危機管理ガイドが示されているにもかかわらず、これに反し、一番浸水災害の可能性が高いエリアの中心部に、新庁舎を含め行政機能を集約する選択が行われることに、多くの住民が不安を感じるのは当然のことです。

また、文化は人間が人間らしく生きるために重要であり、社会の基盤を形成するものです。しかし、園芸試験場跡の果樹公園を潰して新庁舎を建設しようとする判断は、町の魅力である豊富な自然や人々の温かさにつながる文化的価値を損なう姿勢だと思います。

文化団体連盟が解散してしまった影響か、学芸員などの文化に精通する方の声が失われた結果なのかと感じるように、蘇峰堂は解体される方向に向かっているとの事で、吉田五十八邸も失われることにつながったのではないかと思うような現実を目の当たりにすることとなりました。

このように、著名人ゆかりの歴史的遺産が消えていく姿を見ると、かつて暮らしやすい町を標榜した二宮町が歴史や文化を失い、暮らしにくい低俗な町に向かっているように感じ、非常に悲しく感じております。

以上です。